

現代の日本人が好む絵画と伝統的構図・表現方法の比較研究

Comparison of Traditional Composition and Expressive Style of Paintings Preferred by Modern Japanese

人文科学系/比較文化研究/論文

地域キュレーションコース

阿部 みお

Mio Abe

◎はじめに

近年、全国の雑貨店にて「名画」と呼ばれる西洋絵画をモチーフとしたハンカチやアクセサリーなどの商品を目にすることが多い。本研究では「親近感」をキーワードに、名画が時を超えて愛される理由を、現代の日本人と馴染み深いイラストと比較することで考察していく。



図1,2 名画をモチーフとした雑貨。左から、3carat「おもてなしクロス」、Bleu Bleu「オリジナル名画ウォッチ」

◎比較結果

名画とイラストについて、構図と人物表現の比較分析を行った。構図について、画面を等分割した結果、次の共通点が見られた。

1. 分割線に基づく人物の配置・プロポーションおよび背景描写
2. 服に広がりを持たせる
3. 動きや視線誘導の演出

名画・イラストともに、作者は、分割線を活用した画面構成で鑑賞者に強い印象を残すこと、躍動感や生命感の演出を意識して作品を描いていることが窺える。

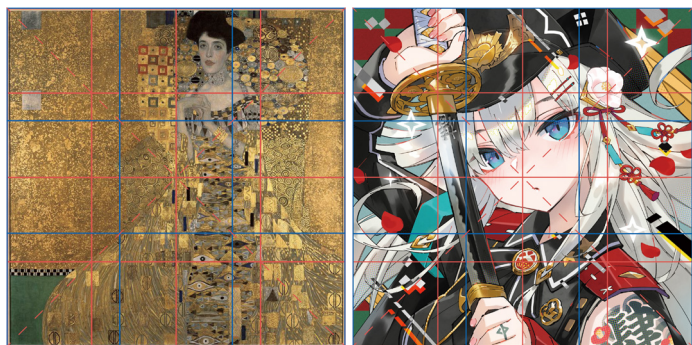


図3,4 構図分割の例。左から、クリムト《アデレ・ブロッホ＝パウワーの肖像I》、さいとうなつき「椿-tsubaki-」

人物表現について、ポーズやプロポーション、顔の描写を調査した結果、次の共通点が見られた。

1. 卵型の顔の輪郭
2. 丁寧に描き込まれる目
3. 目は額と顎の中心、鼻先は肩から顎の中心にある

名画・イラストともに、作者は、人物の目が特に印象強くなるよう描いていると窺える。また、輪郭や目鼻の配置から、美しいとされる女性の顔立ちについて共通認識を持っているとわかる。

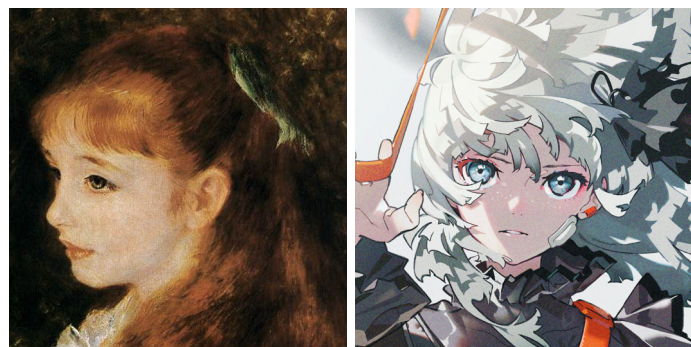


図5,6 人物描写の例。左から、ルノワール《イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢》、米山舞「SHE-BLACK RAT」

以上の調査から、現代の日本人が「親近感」を抱くイラストと、名画の間には、作品の表現方法について一定の共通認識があるといえる。それは、分割線の活用による効果や、強く印象に残したい顔の部位などであるとわかった。

◎おわりに

名画とイラストには、技法や作品への印象など様々な相違点がある。しかし作品を比較した結果、どちらにも共通する表現方法が複数あるとわかった。現代の日本人は、このような普遍的な美意識に訴える表現に惹かれ、イラストと同様に、名画に「親近感」を抱くのだと考察する。

また作品を調査する中で、イラストは名画より作品ジャンルや描写方法などが幅広いことがわかった。つまり、表現方法に正解がないのである。現代の日本人は、このような特徴を持つイラストと馴染み深いため、あらゆる絵画を平等に受け入れ、楽しむことができるのだろう。だからこそ、幅広い制作年代や作風の絵画が人々に浸透し、「名画」として今なお愛されていると考察する。